

2024年11月28日

お客様各位

セイコーソリューションズ株式会社

SmartJumper Version 1.1.0 リリースノート

目次

Version 1.1.0 (リリース日 : 2024/11/28)	2
1 機能追加	2
1-1 ターゲット接続時に使用するアカウント情報保存機能の追加.....	2
1-2 SmartJumper SSH アクセス時の公開鍵認証に対応.....	3
1-3 HTTPS アクセス時の証明書インポート機能の追加.....	3
1-4 ターゲット、ターゲットディレクトリの移動機能の追加.....	3
1-5 CSV ファイルによる設定情報のインポート・エクスポート機能の追加.....	3
1-6 ターゲットの検索機能に「接続中セッションの説明」を追加.....	4
1-7 ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加.....	4
1-8 IPv4 リンクローカルアドレスのターゲットに接続できる機能を追加.....	5
2 機能改善及び仕様変更	5
2-1 GUI 関連の機能改善.....	5
2-2 CLI 関連の機能改善.....	5
2-3 SSH 暗号アルゴリズムの強化.....	6
2-4 SmartJumper のセッション情報周りの変更.....	7
2-5 smartjumper コマンドの変更.....	7
2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の変更.....	7
2-7 SmartJumper の sshconfig に関する変更.....	7
3 不具合修正	8
3-1 DB ヘルスチェックの修正.....	8
3-2 IPv6 無効環境で SmartJumper が起動しない不具合を修正.....	8
3-3 ログのダウンロードに失敗する不具合を修正.....	8
3-4 ターゲットディレクトリ名とターゲット名の重複による不具合の修正.....	8
3-5 telnet 接続時のウィンドウサイズが調整されない不具合を修正.....	8

1-2 SmartJumper SSH アクセス時の公開鍵認証に対応

ユーザーが SmartJumper に SSH 接続する際の公開鍵認証に対応しました。
サポートする公開鍵アルゴリズムは下記の通りです。

- ecdsa-sha2-nistp256
- ecdsa-sha2-nistp384
- ecdsa-sha2-nistp521
- ssh-ed25519

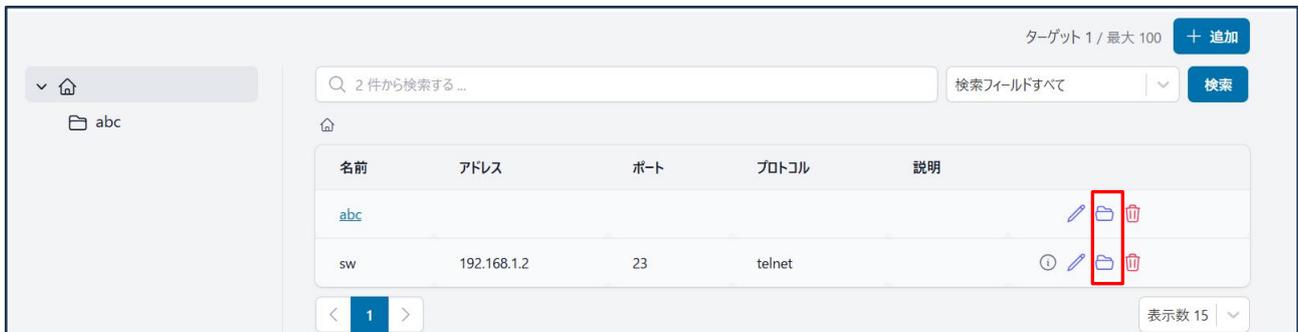
1-3 HTTPS アクセス時の証明書インポート機能の追加

HTTPS アクセス時に使用する SSL 証明書に、v1.0.0 では SmartJumper の自己署名された証明書のみをサポートしていましたが v1.1.0 ではユーザーが指定する任意の証明書を使うことができるようになりました。

1-4 ターゲット、ターゲットディレクトリの移動機能の追加

ターゲット管理画面からターゲット、ターゲットディレクトリを別のディレクトリへ移動できるようになりました。

図の赤枠内の移動フォルダのアイコンをクリックした後に移動先のディレクトリを選択し移動できるようになりました。



1-5 CSV ファイルによる設定情報のインポート・エクスポート機能の追加

SmartJumper の config を CSV ファイルで保存、追加、編集できるようにしました。
主な追加変更の点としては以下となります。

- config をエクスポートする機能を追加
- config が入った状態でもインポートが可能
- エクスポートした CSV ファイルに追加、編集してインポートが可能

※注意点として SmartJumper にユーザーがアクセスしていない状態で実行して下さい。

1-6 ターゲットの検索機能に「接続中セッションの説明」を追加

接続中ターゲットへ相乗り接続したい場合にターゲットの検索種別に「接続中セッションの説明」欄を追加することで、接続時のターゲットセッションの説明からターゲットを検索できるようにしました。

「接続中セッションの説明」は「検索フィールドすべて」と「接続中セッションの説明」で検索可能です。

検索方法は、文字列での検索文字を含むかどうか(部分一致)となります。



1-7 ユーザーセッションログ画面に削除アイコンを追加

ユーザーセッションのログ画面にログを削除するためのアイコンを追加しました。

赤枠の削除ボタンから該当のターゲットセッションのログを削除することができます。



1-8 IPv4 リンクローカルアドレスのターゲットに接続できる機能を追加

SmartJumper から IPv4 リンクローカルアドレスのターゲットへの接続に対応しました。
本機能はデフォルトでは無効となっており、SmartJumper にリンクローカルアドレスを設定することで有効となります。

2 機能改善及び仕様変更

2-1 GUI 関連の機能改善

GUI 機能及び GUI の操作を改善しました。

- ・サインインしているユーザーのパスワードを変更する際に現在のパスワードも入力するよう変更
- ・ターゲット、ユーザー、アクセスグループの作成、編集画面で、関連付ける対象を選択した際に、選択後に未選択リストのページを維持するようになりまとめて選択できるように変更
- ・ユーザーセッションログ画面からターゲットセッションログ画面へ戻った際の、直前のターゲットセッションログの検索条件を引き継ぐよう変更
- ・ホーム画面、ターゲット管理画面での検索時にすべての検索フィールドを対象にして検索できるよう変更
- ・各テーブルやリストのデフォルトの並び順を ID 順から名前順へ変更

2-2 CLI 関連の機能改善

CLI コマンドおよび CLI 操作を改善しました。

- ・ターゲット接続時の idle timeout を GUI と同様に 60 分に変更
- ・list コマンドに<TargetName> オプションを追加し、ターゲット検索をできるよう変更
- ・<TargetName>をオプション指定する list、detail、connect コマンドにタブ補完機能を追加
- ・connect コマンドのオプション Description はダブルクォーテーションで囲む事でスペース指定可能となるよう変更

2-3 SSH 暗号アルゴリズムの強化

セキュリティ強化の為、以下の SSH アルゴリズムをサポートしました。

- 暗号化アルゴリズム (Ciphers)

アルゴリズム	V1.0.0	V1.1.0
aes128-gcm@openssh.com	○	○
chacha20-poly1305@openssh.com	○	×
aes128-ctr	○	○
aes192-ctr	○	○
aes256-ctr	○	○

- メッセージ認証符号 (MACs)

アルゴリズム	V1.0.0	V1.1.0
hmac-sha2-256-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-512-etm@openssh.com	○	○
hmac-sha2-256	○	○
hmac-sha2-512	○	○
hmac-sha1	○	○
hmac-sha1-96	○	×

- 鍵交換アルゴリズム (KeyExchanges)

アルゴリズム	V1.0.0	V1.1.0
curve25519-sha256	○	○
curve25519-sha256@libssh.org	○	○
ecdh-sha2-nistp256	○	○
ecdh-sha2-nistp384	○	○
ecdh-sha2-nistp521	○	○
diffie-hellman-group14-sha256	○	○
diffie-hellman-group14-sha1	○	×

- ホスト鍵アルゴリズム (HostKeyAlgorithms)

アルゴリズム	V1.0.0	V1.1.0
ssh-rsa	○	×
rsa-sha2-256	○	○
rsa-sha2-512	○	○
ecdsa-sha2-nistp521	×	○
ssh-ed25519	×	○

2-4 SmartJumper のセッション情報周りの変更

- SmartJumper の再起動のたびに HTTPS のセッションがリセットされていましたが、前回起動時の情報を保存し、リセットされないように変更しました。
- 以下のコマンドを実行することで SmartJumper にアクセスする際のセッション情報をリセットすることができます。

```
$ smartjumper secret reset
```

2-5 smartjumper コマンドの変更

SmartJumper のバックアップ、リストア、初期化の構文を変更しました。

機能	V1.0.0	V1.1.0
バックアップ	smartjumper volume backup	smartjumper backup
リストア	smartjumper volume delete smartjumper volume restore	smartjumper restore
初期化	smartjumper volume delete smartjumper volume create smartjumper migrate	smartjumper init

2-6 smartjumper コマンド実行時の条件の変更

- smartjumper config/log のコマンドを実行する場合は admin 権限のみ実行可能に変更しました。
- インポートする際は有効なライセンスを適用しないと実行できないように変更しました。

2-7 SmartJumper の sshconfig に関する変更

ターゲットへ接続する際の sshconfig のファイルを指定した後に、再起動しても設定を維持するようにしました。

3 不具合修正

3-1 DB ヘルスチェックの修正

SmartJumper のインストールに時間を要するホスト OS でも、DB ヘルスチェックに失敗しないようにタイムアウト時間を修正しました。

3-2 IPv6 無効環境で SmartJumper が起動しない不具合を修正

ホスト OS で IPv6 が無効の場合、SmartJumper の起動が失敗する不具合を修正しました。

3-3 ログのダウンロードに失敗する不具合を修正

ターゲットでのオペレーション（またはログに書かれるコマンド出力など）の間隔が長いログのダウンロードに失敗する可能性がある不具合を修正しました。

3-4 ターゲットディレクトリ名とターゲット名の重複による不具合の修正

ルートディレクトリ直下だと TargetDirectory と Target 名が重複していても作れてしまう不具合を修正しました。

3-5 telnet 接続時のウィンドウサイズが調整されない不具合を修正

telnet 接続時にユーザー側の端末でウィンドウのサイズを変更した際に、ターゲットの端末は変更したウィンドウサイズの内部情報と同期するように修正しました。